

あとがき (Postscript)

2015 年から 2021 年まで、個別指導塾で英語を小学生から高校生まで教える経験をしました。その時に、特に英語が苦手という生徒たちに時間を掛けずに英文法のポイントを理解してもらう方法として、文法カードを作成して配布しました。その時作成した内容に、今回不足していた項目を追加して、この「ハンディー英文法」を編集しました。

高校生が一般的に使っている文法書は 600 頁以上にわたる分厚い書籍です。文法書は、必要な時に必要な項目を調べるための一種の辞書のようなものですが、分厚いというだけで、子供たちには敬遠されがちです。そのため、少しでも簡単に空き時間でポイントを学習してもらうため、今回は 40 頁あまりに収めるよう編集しました。ですので、受験や学校の試験に対して 100%網羅しているわけではありません。それでも、試験前でもポイントを振り返ってもらうことで、英語の成績が向上して、英語にもっと興味をもってもらえればと思っています。

また、大人の方でも、業務上英語が必要になった時に、まずはポイントをつかむためにご利用いただければと思っています。

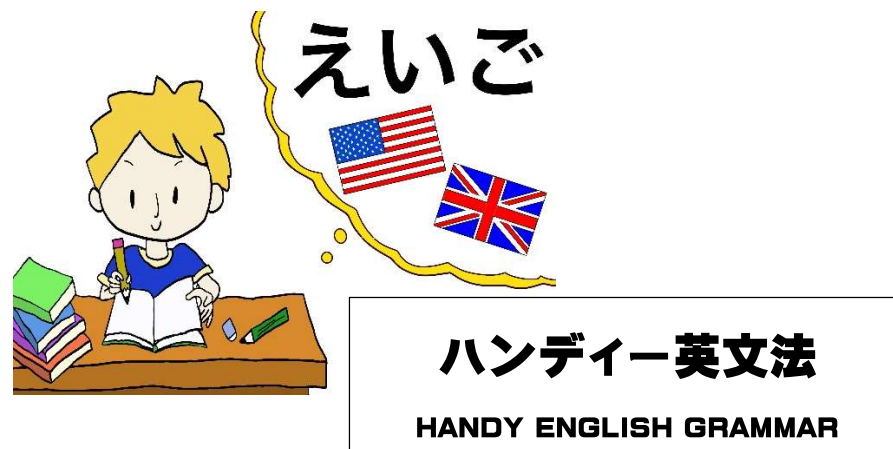
本書は、個人のホームページないしは、限定されたコミュニティの web にのみ掲載し、ダウンロードしてご利用いただけます。

5 年余りの塾講師経験から、アルバイト感覚の学生講師や社会人講師も少なくなく、また副教材を作成し、生徒に供給することも制限されている中、十分納得できる授業ができる環境ではなかったことが残念でした。それでも工夫して作成した文法カードを役立ててくれた生徒、後から改めて確認していた生徒もあり、少しでも役立ててくれたことに感謝しています。

英語の教員免許は一度も実用化できませんでしたが、次の世代を担う子供たちの役に少しでも立てたことは良き思い出です。

鈴木泰寛

2023.8.23



目次 (Table of Contents)

1. 動詞の基本 (Element of Verb) --- P.2
2. 代名詞と動詞の基本 (Element of Pronoun & Verb) --- P.4
3. 代名詞の使用例文 (Example sentences for Pronoun) --- P.5
4. 品詞と文型 (Part of Speech & Sentence Pattern) --- P.7
5. 不規則動詞 (Irregular Verb) --- P.9
6. 動詞の形と時制 (Form of Verb & Tense) --- P.10
7. 接続詞、再帰代名詞と前置詞 (Conjunction, Reflexive Pronoun & Preposition) --- P.11
8. 助動詞 (Auxiliary Verb) --- P.13
9. 動詞と疑問文のおさらい (Review of Verb & Interrogative) --- P.16
10. 不定詞 --- P.18 (Infinitives) おまけ: 会話表現 --- P.19
11. 動名詞と分詞 (Gerunds & Participles) --- P.208
12. 比較 (Comparison) --- P.22
13. 覚えにくい比較表現 (Comparison expressions that are difficult to remember) --- P.23
14. 受動態 (Passive Voice) --- P.26
15. 現在完了形 (Present Perfect) --- P.28
16. 過去完了形 (Past Perfect) --- P.30
17. 関係代名詞 (Relative Pronoun) --- P.32
18. 関係副詞 (Relative Adverb) --- P.35
19. 仮定法 (Subjunctive Mood) --- P.37
20. 分詞構文 (Participial Construction) --- P.40
21. 否定 (Negative) --- P.42
22. 倒置 (Inversion) --- P.43

編集: 2023.8.23

Not for sale

1. 動詞の基本(Element of Verb)

英語の動詞には、①be 動詞と②一般動詞の 2 種類がある。

1. be 動詞 「～である」が基本的な意味。主語によって形が変わる。

例えば、「・・・は先生です。」を英語にすると

- ① 私が I **am** a teacher.
- ② あなたが You **are** a teacher.
- ③ 彼が He **is** a teacher.
- ④ 彼女が She **is** a teacher.
- ⑤ 私たちが We **are** teachers.
- ⑥ あなたたちが You **are** teachers.
- ⑦ 彼らたちが They **are** teachers.

主語が I => am
主語が He, She, it => is
それ以外は => are

※ 要注意！
主語が複数の時は、先生も一人ではないので、teacher に s をつける。

⇒ おさえておこう！

he, she, it は 3 人称単数の代名詞。Mr.Brown は男性なので代名詞は he。Mrs.Brown は女性なので代名詞は she。犬の Taro は it だよ。

だから、Mr. Brown **is** a teacher.

これまでに出てきた文を肯定文という。次に否定文と疑問文を見ていこう。

■否定文「～ではない」主語が 3 人称単数の時は be 動詞の後に not を付ける。でもそれぞれ普通は短縮形を使う。

- ① I **am not** = I'm not
- ② You **are not** = You're not = You aren't
- ③ He **is not** = He's not = He isn't
- ④ She **is not** = She's not = She isn't
- ⑤ It **is not** = It's not = It isn't
- ⑥ We **are not** = We're not = We aren't
- ⑦ They **are not** = They're not = They aren't

■疑問文「～ですか」も否定文と同じだが短縮形は使わないのが普通。

- ① **Am** I ～？ ② **Are** you ～？ ③ **Is** he(she, it) ～？
- ④ **Are** we ～？ ⑤ **Are** they ～？

■疑問文に対する答え方 => No の時は短縮形も使うよ。

Yes, I **am**. No, I'm not. Yes, he **is**. No, he **isn't**. などと使う。

22. 倒置(Inversion)

英語の文法書には、まだまだ記載されている項目がありますが、英文を読んでいてパニックに近い疑問を感じがちな倒置された文について述べて本英文法のポイントの最終章とします。

普通の英文は、主語+述部という順番。これなら理解できるのに、普通の文であるにも関わらず順番が変わっている文があります。あれ？主語がない？主語はどれ？なんて一瞬パニックに陥ってしまいがちですが、仕組みを知っていれば、倒置文なんだと分かります。普通の文の順番に並び替えられれば、大体意味が分かるようになります。

1. 否定を表す副詞が文頭に来る

Never have I seen such a beautiful rainbow.私はこんな美しい虹を見たことがない。

=> 普通の順番だと、I have never seen such a beautiful rainbow. となりますね。

2. 方向や場所を表す副詞が文頭に来る

Down fell an apple. 下に落ちたのはリンゴだった。=>An apple fell down.

In my pocket was his business card. 私のポケットの中にあったのは彼の名刺だった。

=> His business card was in my pocket.

でも主語が代名詞だと **Into the room he walked**.部屋の中に彼は歩いては行った。

と、主語と動詞は倒置しません。

3. 目的語が文頭に来る

Not a word did she say. 一言も彼女は口に出さなかった。=>She did not say a word.

4. 補語が文頭に来る

Wonderful was the view from the balcony. 素晴らしかったのは、そのバルコニーからの眺めだった。=> The view from the balcony was wonderful.

上記例文の訳からも分かるように、倒置された文は、一種の強調構文です。文頭にくる言葉を強調したい、という意図があります。

21. 否定(Negative)

英語の否定表現を端的に説明することは容易ではありません。ここでは、日本人が混同しやすいとか反対の意味に捉えがちな表現について触れておきます。

1. 部分否定と全否定

- (1) All of the members attended the meeting. 肯定
 (2) Not all of the members attended the meeting. 部分否定
 (3) None of the members attended the meeting. 全否定

(1)は会員の全員が会議に出席した。(2)は会員の全員が会議に出席したわけではない。(3)会員は誰も会議に出席しなかった。

2. 部分否定

- (1) She does not always agree with me. (彼女はいつも私に同意するとは限らない。)
 (2) Your theory is not completely wrong.

(君の理論は完全に間違っているわけではない。)

部分否定をつくる副詞には次のようなものがある。

all, every, always, necessarily, quite, altogether, completely, entirely など。

I didn't quite understand what he was saying.

(彼の言っていたことを完全には理解していなかった。)

3. 二重否定 二重否定は、言い換えると完全肯定。

- (1) He never visits us without bringing a gift.
 (彼は訪問する時はいつも土産を持ってくる。)
 (2) It's not unusual for couples to quarrel. (夫婦がけんかするのはいつもの事だ。)

4. not と副詞の位置

- (1) I just don't like her. (彼女の事は全く好きではない。) 完全否定
 (2) I don't just like her. (彼女の事がどうしようもないくらい好きだ。) 正反対の意味
 (1)は、just「全く、完全に」が don't という否定表現を修飾しているため、否定が強められている。
 一方(2)は、否定語 not が just「ただ単に」を修飾しているため、「単に彼女の事が好きだというわけではない。」->「彼女の事がどうしようもないくらい好きだ。」という意味になっている。否定語と、just, simply といった副詞との位置関係には注意が必要。

2. 一般動詞 「～する」が基本的な意味。3 人称単数の時は形が変わる。

例えば、「・・・は泳ぎます。」を英語にすると

- ① 私が I swim.
 ② あなたが You swim.
 ③ 彼が He swims.
 ④ 彼女が She swims.
 ⑤ 私たちが We swim.
 ⑥ あなたたちが You swim.
 ⑦ 彼らたちが They swim.

主語が He, She, it の時だけ動詞の原形に s が付く。

ただ s を付けるのではなく少し形が変わる動詞もあります。
 have(持つ) => has
 go(行く) => goes
 study(勉強する) => studies

■否定文「～しない」主語が 3 人称単数の時は does not (=doesn't), それ以外は do not(=don't) を使う。

I don't swim. He doesn't swim. We don't swim.

■疑問文「～しますか」も否定文と同じ

Do you swim? Does he swim? Do they swim?

疑問文に対する答え方 => No の時は短縮形も使う。

Yes, I do. No, I don't. Yes, he does. No, he doesn't. などを使う

● be 動詞と一般動詞を混同しないで!

be 動詞を使った疑問文 => be 動詞を使って答える。

一般動詞(Do や Does)を使った疑問文 => Do や Does を使って答える。

Are you a teacher? => ○ Yes, I am. × Yes, I do.

Do you swim? => ○ Yes, I do. × Yes, I am.

● does がある場合は 動詞に「s」は付けない!

○ Does he swim? × Does he swims?

○ He doesn't swim. × He doesn't swims.

● 子音+y で終わる語 => y を i に変えて es を付ける

study => studies cry => cries try => tries fly=>flies

● 疑問詞を使った疑問文の例

what	何	What's (=What is) this? 「これは何?」
when	いつ	When do you play tennis? 「あなたはいつテニスをするの?」
where	どこ	Where is your school? 「あなたの学校はどこ?」
why	なぜ	Why do you like tennis? あなたはなぜテニスが好きなんですか。」
who	誰	Who's (Who is) he? 「彼は誰?」
which	どちら	Which do you like, bread or rice? 「パンと米とどちらが好きですか。」
how	どのように	How is your school life? 「学校生活はどうですか。」

2. 代名詞と動詞の基本 (Element of Pronoun & Verb)

英語には繰り返し同じ名詞は使わず代名詞を使うのが一般的。まずはこの表を覚えてしまわないことには次には進めない！

代名詞と動詞の基本

代名詞と動詞の基本						be動詞		一般動詞(do)		
単複	人称	主格	所有格	目的格	所有代名詞	現在	過去	現在	過去	
		～は	～の	～に/を	～のもの	～です	～でした	～する	～した	
単数	一人称	I	my	me	mine	am	was	do	did	
	二人称	you	your	you	yours	are	were	do		
	三人称	he	his	him	his	is	was	does		
		she	her	her	hers			do		
		it	its	it	-					
複数	一人称	we	our	us	ours	are	were	do		
	二人称	you	your	you	yours					
	三人称	they	their	them	theirs					

現在進行形 be動詞の現在 + 動詞のing now(現在)などの副詞を伴うことが多い
過去進行形 be動詞の過去 + 動詞のing then(その時)などの副詞を伴うことが多い
否定形 動詞の後に not をつける。短縮形を使うことが多い。
疑問文 isn't, aren't, wasn't, weren't, don't, doesn't, didn'tはよく使われる
be動詞の場合は、be動詞 + 主語 ～ ? の順番
一般動詞の場合は、Do/Does/Did + 主語 ～ ? の順番

基本文型

S(主語) V(動詞) O(目的語) C(補語) 英語の基本文はこれらの要素から出来ていて基本文型は5つのタイプに分かれる。 **基本的に一つの文に動詞は一つ!**

1. S+V I go to school. 私は学校へ行きます。
2. S+V+C He is my teacher. 彼は私の先生です。 => S=C
3. S+V+O I like him. 私は彼が好きです。
4. S+V+O+O My parents gave me a present. 両親が私に贈り物をくれました。
5. S+V+O+C He made me happy. 彼が私を幸せにしてくれました。=> O=C

一般動詞 ～する

現在形 主語が単数三人称の時は動詞の原形の後にsをつける。
likes, loves, plays と殆どの動詞にsをつけるだけ。
でも例外がある。
go => goes, study => studies, teach => teaches など
過去形 動詞の原形にedをつけるものが大半。
played, washed, cleaned など。但しeで終わる語はdだけをつける。
loved, liked, moved, lived など
その他不規則に変化する動詞は覚えるしかない。
go=>went, run=>ran, teach=>taught, make=>made, write=>wroteなど。

4.完了形の分詞

Having read the novel, I already knew the ending of the movie.

原作を読んでいたので、すでにその英語の結末を知っていた。

= **Because I had read** the novel, I already knew the ending of the movie.

⑬過去完了のカードも参照してください。

5.分詞の前に接続詞を置く

While skiing in Hokkaido, he twisted his ankle. 北海道でスキーをしているときに、～。

分詞構文の意味を明確にするために、分子の前に接続詞を置くことがある。

6.独立分詞

It being Monday, the barber shop was closed. 月曜日なので、床屋は閉まっていた。

分詞の意味上の主語が主節の文と異なる場合は、意味上の主語を分詞の前に置く。

= **Because it was** Monday, ～。

7.付帯状況 with + A + 分詞

The dog sat there **with his tongue hanging out**. 舌をだらっと垂らして座っていた。

He stood in front of us **with his arms folded**. 腕を組んで正面に立っていた。

A と分詞の関係を考えて、現在分詞にするか、過去分詞にするかを考えること。

慣用句的な表現は覚えておくこと。 **frankly speaking, speaking of, generally speaking, strictly speaking, judging from** など。

20. 分詞構文(Participial Construction)

1. 形と働き

- ① My mother is cleaning the kitchen **singing a song**. 歌いながら掃除をしている。
 ⇒ My mother is **singing a song**. 進行形で意味が成り立つので、**現在分詞**。
 ② **Seen from the plane**, the island looks like a ship. 飛行機から見ると～。
 ⇒ The island is **seen** from the place, ～. 受動態で意味が成り立つので**過去分詞**。

2. 表す内容

- ① その時何をしているか？
 Some girls are walking down the road **talking to each other**. 話しながら。
 ② 何をしている時か？
Waling along the beach, I found a beautiful shell. 浜辺を歩いているとき、～。
 = **While I was walking along the beach**, ～。
 ③ 動作が続くこと
Talking out a key from his bag, he opened the box. 鞆からカギを取り出して、～。
 = **He took out a key from his bag and** opened the box.
 ④ 原因や理由
Written in simple English, this book is easy to understand.
 簡単な英語で書かれているので、～。
 = **Since[As,Because] this book is written in simple English**, it is easy to understand.

3. 否定語の位置

- Not knowing** what to say, he kept silent. 何を言うべきか分からなかったので、～。
 = **As he didn't know** what to say, ～。

3. 代名詞の使用例文 (Example sentences for Pronoun)

ごくごく簡単な文を覚えて、代名詞の使い方をマスターしよう！

① 1人称単数 「私」 **I – my – me -mine**

主格「私は」	I am a student. 「私は生徒です。」
所有格「私の」	It is my pen. 「それは私のペンです。」
目的格「私に/を」	He teaches me English. 「彼は私に英語を教えてください。」
所有代名詞「私のもの」	He is a friend of mine . 「彼は私の友達の一人です。」 This pen is mine . 「このペンは私のものです。」

② 2人称単数 「あなた」 **you – your - your - yours**

主格「あなたは」	You are a student. 「あなたは生徒です。」
所有格「あなたの」	It is your pen. 「それはあなたのペンです。」
目的格「あなたに/を」	He teaches you English. 「彼はあなたに英語を教えてください。」
所有代名詞「あなたのもの」	He is a friend of yours . 「彼はあなたの友達の一人です。」 This pen is yours . 「このペンはあなたのものです。」

③ 3人称単数 「彼」「彼女」「それ」 **it - its – it – 所有代名詞はない**

主格「彼は」 「彼女は」 「それは」	He is a student. 「彼は生徒です。」 She is a student. 「彼女は生徒です。」 It is a dog. 「それは犬です。」
所有格「彼の」 「彼女の」 「その」	It is his pen. 「それは彼のペンです。」 It is her pen. 「それは彼女ペンです。」 I have a bag. Its color is red. 「カバンを持っています。その色は赤です。」
目的格「彼に/を」 「彼女に/を」 「それに/を」	I teach him English. 「私は彼に英語を教えます。」 I teach her English. 「私は彼女に英語を教えます。」 I need it . 「私はそれを必要としています。」

④ 1人称複数 「私たち」 **we - our - us - ours**

主格 「私たちは」	We are students. 「 私たちは 生徒です。」
所有格 「私たちの」	It is our school. 「それは 私たちの 学校です。」
目的格 「私たち に/を 」	He teaches us English. 「彼は 私たちに 英語を教えてください。」
所有代名詞 「私たちの もの 」	That ball is ours . 「あのボールは 私たちのもの です。」

⑤ 2人称複数 「あなたたち」 **you - your - you - yours**

主格 「あなた たち は 」	You are students. 「 あなたたちは 生徒です。」
所有格 「あなた たちの 」	It is your pen. 「それは あなたたちの ペンです。」
目的格 「あなた たちに/を 」	He teaches you English. 「彼は あなたたちに 英語を教えてください。」
所有代名詞 「あなた たちのもの 」	The earth is yours . 「地球は あなたたちのもの です。」

you and Ken 「あなたとケン」を代名詞に置き換えると **you** 「あなたたち」になる。

⑥ 3人称複数 「彼ら、彼女ら、それら」 **they - their - them - theirs**

主格「 ～は 」	They are students. 「 彼らは 生徒です。」
所有格「 ～の 」	It is their pen. 「それは 彼らの ペンです。」
目的格 「 ～に/を 」	He teaches them English. 「彼は 彼らに 英語を教えてください。」
所有代名詞 「 ～のもの 」	The earth is theirs . 「地球は 彼らのもの です。」

3-8. **as it were** (so to speak よりもやや堅い表現)

ex1) This is, **as it were**, the global age. 今日は、言わばグローバル時代だ。

4. **if** の省略

<if 節中に **were**, 過去完了, **should** が用いられる場合、倒置して条件節を作ることが出来る。>

ex1) **Were** I in your shoes, I **would tell** James the truth.

私があなたの立場なら、ジェームズに真実を伝えるだろう。

ex2) **Should** it rain tomorrow, the game **will be** called off.

万が

一明日雨が降れば、試合は中止になるだろう。

5. **if** 節を用いない表現

<if 節を用いずに、主語や副詞(句)に仮定の意味が含まれる場合がある。手がかりは助動詞。>

ex1) You accepted their offer? **I would have turned** it down.

彼

らの申し出を受けたの？ 僕なら断っていたのになあ。

6. 仮定法現在

<まだ実現していないことを提案、要求する、という意味が含まれる。>

ex1) I **proposed that** the plan **be** carried out at once.

私はその計画がすぐに実行されることを提案した。

よく使われる動詞

propose, suggest, demand, insist, advise, request, order など。

ex2) I **wish** I **had finished** my homework last night.

昨夜宿題を終えておいたらよかったあ。

仮定法過去完了

S + wish + S' + 過去完了形 ~

「(その時)~だったらよかったのになあ」

3-2. **should** を使った未来についての想像[万が一~だったら・・・]

ex1) If she **should** come here, I **will** let you know at once.

万が一彼女がここに来たら、直ぐにお知らせします。

3-3. **were to-V** を使った未来についての想像[万が一~だったら・・・]

ex1) What **would** become of us if the earth **were to** stop rotating?

地球が自転を止めたらどうなるのだろうか。

3-4. **as if(though)** を使った仮定法表現[これも過去と過去完了がある]

ex1) I feel **as if** I **were** in paradise. まるで私は天国にいるようだ。

ex2) The accident happened many years ago. However, I feel **as if it had happened** only yesterday. その事故は 10 年前に起こったが、まるで昨日起こったかのように感じる。

3-5. **if it were not for** や **without, but for** などを使った表現

[これも過去と過去完了がある]

ex1) **If it were not for** Mr.Brown's help, our plan **wouldn't be** going well.

= **Without** Mr.Brown's help, our plan **wouldn't be** going well. も
シブラウンさんの援助がなければ、私たちの計画はうまくいかないだろう。

ex2) **If it had not been for** careless mistakes, I **would have gotten** a high score.

=**Without** careless mistakes, I **would have gotten** a high score.
不注意なミスがなかったら、もっと高得点をとっただろうに。

3-6. **It is time S + 過去形**

ex1) **It is time** you **went** to bed. もう寝てもいい頃だ。(まだ寝ていないが、寝てなければいけないぞ、と非難している。It is time for you to go to bed. は意味的には同じだが非難はしていない。)

3-7. **It only S + 仮定法!**

ex1) I'm too busy. **If only** I **had** a little more free time!

忙しすぎる。もう少し自由な時間さえあればなあ。

4. 品詞と文型(Part of Speech & Sentence Pattern)

P.4 で説明した文型について、品詞とともにおさらいしましょう!

1. 品詞

英語には国語同様様々な品詞がある。英語では、その働きによって 10 種類の品詞に分類できる。

品詞	働き	例
名詞	人や物事の名を表す。数えられる名詞と数えられない名詞があり、主語、目的語、補語になる。	Man, teacher, wind computer, happiness など
冠詞	名詞の前に置かれ、その名刺が不特定のものか、特定のものを示す。	a/an(不特定) the(特定)
代名詞	名詞の代わりをする。人称代名詞や指示代名詞があり、人称代名詞は働きによって変わり、冠詞や修飾語句をつけることはできない。	I, me, you, him, this, that, some these, those, any など
形容詞	名詞を修飾したり、補語になる。	right, happy など
副詞	動詞や形容詞を修飾する。	always, home, very など
動詞	人や物事の状態や動作を表す。	be, have, love, go など
助動詞	動詞との組み合わせで話し手の判断などを示す。	can, may, must など
前置詞	名詞や代名詞の前に置かれ、前置詞句をつくる。	at, in, on, for, to など
接続詞	「語と語」「句と句」「節と節」をつなぐ。	and, but, or など
間投詞	話し手の感情を表す。	ah, oh, well など

これを覚えておけば、この後に出てくる文法も分かりやすくなるので、英文を読むときに、この品詞はなんだろう? と考えて読んでみるといい。

37

2. 先行詞の省略

I can see the tower from **where** I stand. <the place が省略。>

Falls is **when** I can study best. <the time が省略。>

That's **why** I was last. <the reason が省略。>

3. 継続用法

where と **when** には、関係代名詞と同じようにも先行詞について補足的に説明を加える継続用法がある。カンマで区切るのが

I went into the room, **where** (=and there) I found a stranger sitting on the sofa.

We were about to go out, **when** (= and then) they came to see us.

5. 不規則動詞(Irregular Verb)

一般動詞には不規則に変化するものがあるが、規則変化する動詞に比べるとかなり少ないので、このくらいは覚えてしまおう!

①不規則動詞

原形	過去形	過去分詞	意味
bear	bore	born	生む
beat	beat	beaten	負かす
become	became	become	なる
begin	began	begun	始める
blow	blew	blown	吹く
break	broke	broken	破る
bring	brought	brought	持ってくる
build	built	built	建てる
buy	bought	bought	買う
catch	caught	caught	捕まえる
choose	chose	chosen	選ぶ
come	came	come	来る
cut	cut	cut	切る
do	did	done	する
draw	drew	drawn	描く
drink	drank	drunk / drunken	飲む
drive	drove	driven	運転する
eat	ate	eaten	食べる
fall	fell	fallen	倒れる
fight	fought	fought	戦う
find	found	found	見つける
fly	flew	flown	飛ぶ

原形	過去形	過去分詞	意味
pay	paid	paid	払う
put	put	put	置く
read	read[レドゥ]	read[レドゥ]	読む
ride	rode	ridden	乗る
ring	rang	rung	鳴る
rise	rose	risen	上がる
run	ran	run	走る
say	said[セドゥ]	said[セドゥ]	言う
see	saw	seen	見る
sell	sold	sold	売る
send	sent	sent	送る
set	set	set	据える
shake	shook	shaken	振る
shoot	shot	shot	撃つ
show	showed	shown	示す
sing	sang	sung	歌う
sit	sat	sat	座る
sleep	slept	slept	寝る
speak	spoke	spoken	話す
spend	spent	spent	費やす
stand	stood	stood	立つ
swim	swam	swum	泳ぐ
take	took	taken	取る

原形	過去形	過去分詞	意味
forget	forgot	forgot/forgotten	忘れる
forgive	forgave	forgiven	許す
get	got	got	得る
give	gave	given	与える
go	went	gone	行く
grow	grew	grown	成長する
have	had	had	持つ
hear	heard[ハドゥ]	heard[ハドゥ]	聞く
hit	hit	hit	打つ
hold	held	held	持っている
hurt	hurt	hurt	傷つける
keep	kept	kept	保つ
know	knew	known	知る
leave	left	left	去る
lend	lent	lent	貸す
let	let	let	させる、貸す
lie	lay	lain	横たわる
lose	lost	lost	失う
make	made	made	作る
mean[ミーン]	meant[メントゥ]	meant[メントゥ]	意味する
meet	met	met	会う
mistake	mistook	mistaken	間違える

原形	過去形	過去分詞	意味
teach	taught	taught	教える
tell	told	told	話す
think	thought	thought	考える
throw	threw	thrown	投げる
understand	understood	understood	理解する
wake	woke	woke	目を覚ます
wear	wore	worn	着る
win	won	won	勝つ
write	wrote	written	書く

②規則動詞だが、少々変わった変化をする動詞

eで終わる単語 => dだけをつける

like	liked	liked	好む
love	loved	loved	愛する

最後の文字を重ねてedを付ける

occur	occurred	occurred	起こる
prefer	preferred	preferred	選ぶ、好む
stop	stopped	stopped	止まる

最後のyをiに変えてedを付ける=>yの前が子音の時

carry	carried	carried	運ぶ
copy	copied	copied	写す
cry	cried	cried	泣く、叫ぶ
study	studied	studied	勉強する
try	tried	tried	試す

6. 動詞の形と時制(Form of Verb & Tense)

① 現在形

現在の状態	I love chocolate ice cream. 私はチョコレートアイスが大好きです。
現在の反復動作	I always drink coffee at breakfast. 私はいつも朝食時にコーヒーを飲みます。
一般的な事実	The earth goes around the sun. 地球は太陽の周りをまわっています。
確定した未来	Our flight leaves at 11:45. 私たちのフライトは 11:45 に出発します。

② 現在進行形 =[be 動詞の現在形]+[一般動詞+ing(現在分詞)]

現在進行中の動作	She is playing the piano now . 彼女は今ピアノを弾いています。
一定期間繰り返し行われている動作	These days, I am eating a lot of vegetables. 最近野菜を沢山食べています。
未来の予定	I'm leaving for Paris tomorrow. 私は明日パリに向けて出発

③ 過去形

過去の状態	The store was full of young people. その店は若者でいっぱいだった。
過去の反復動作	I usually rode my bicycle to school. 私は普段自転車で通学しました。
過去に 1 回行われた動作	We went to a concert. 私たちはコンサートに行きました。

④ 過去進行形 =[be 動詞の過去形]+[一般動詞+ing(現在分詞)]

過去のある時に進行中だった動作	I was watching TV around noon. 私はお昼ころテレビを見ていました。
過去のある期間に繰り返し行われた動作	I was coughing all night long. 私は一晩中咳をしていました。
過去から見た未来の予定	I thought you were coming home at six. 私は、あなたが 6 時に来ると思っていました。

⑤ 未来形 =[will または be going to]+[一般動詞の原形]

Will で未来を表す	My brother will be twenty next year. 私の兄は来年 20 歳になります。
be going to	I'm going to buy a camera. 私はカメラをかうつもり(予定)です。

⑥ 未来進行形 =[will be]+[一般動詞+ing(現在分詞)]

未来のある時に進行中だと思われる動作	We will be playing tennis at this time tomorrow. 私たちは明日のこの時テニスをしているだろう。
未来のある時にする予定になっている動作	I will be meeting him at the airport next week. 私は来週空港で彼に会う予定です。

18. 関係副詞(Relative Adverb)

関係副詞には **where, when, why, how** がある。関係代名詞が「接続詞+代名詞」の働きをするのに対して、関係副詞は「接続詞+副詞」の働きをします。

That is **the house**. He lives **in it(=there)**.

場所 副詞

That is **the house** **where** he lives.

先行詞

1. 関係副詞の種類と用法

① where => 先行詞が「場所」を表す

Is this **the place** **where** the accident happened?(ここは事故が起こった場所ですか。)

= Is this **the place**? と The accident happened **there**. が 1 文になっている。

= Is this **the place** **at which** the accident happened? = 関係代名詞

② when => 先行詞が「時」を表す

I remember **the day** **when** we first met.(私たちが最初にあった日のことを覚えています。)

= I remember **the day**. We first met **then**. 2 文に分けるとこうなる

= I remember **the day** **on which** we first met. = 関係代名詞

③ why => 先行詞が「理由」を表す

This is **the reason** **why** I didn't come yesterday.

(これが昨日来なかった理由です。)

= This is **the reason**. I didn't come yesterday **for it**. 2 文に分けるとこうなる

= This is **the reason** **for which** I didn't come yesterday. = 関係代名詞

④ how => 先行詞なしで使われ、「方法」を表す

This is **how** I did it. (こんなふうにして私はそれをした。)

= This is **the way** I did it. と言い換えることもできる。

長文読解時の注意点

限定用法の例文の場合でも、長文読解時は、頭から読んでいかなければ、理解するのに時間がかかってしまうことはご存知の通りですが、同時に先行詞を限定している、ことを念頭に入れておく必要があります。

頭から読んでいくと、「図書館に 5 人の少年がいて彼らは勉強していた。」となりますが、このままでは継続用法と同じ訳になってしまいます。関係代名詞の前にカンマがあるかないかで、意味が異なることをよく理解しておきましょう。

継続用法の場合は目的格でも関係代名詞は省略できない!

5. その他の関係代名詞

接続詞として用いられる **as, but, than** は、それからが導く節の中で、主語、補語、目的語の働きをして **関係代名詞的な働き** をすることがある。

- as such A as** ～ 「～のような A」, **the same A as** ～ 「～と同じ A」
as A as ～ 「～と同じくらい A」 など
You must read **such** books **as** you can understand.
He has **the same** camera **as** I have.
He is **as** great a man **as** ever lived.
- but that** ～ not の意味で前に否定語を伴って用いられ、「～ではない」の意味になる。
There is no rule **but** has exceptions.
= There is no rule **that** has **no** exceptions.
There are few men **but** know that.
= There are few man **who** do **not** know that.
- than** 構文上の主語や目的語の位置にくる場合、関係代名詞的な働きをする。
My grandmother gave me more **than** I wanted.
A child should not have more money **than** is necessary.
- who, which, what に **ever** が付くものを複合関係代名詞と言い、それ自体に先行詞を含み、名詞節を導く。
Whoever (=Anyone who) comes first may have it.
Whatever (=Anything that) he says is true.

7. 接続詞、再帰代名詞と前置詞 (Conjunction, Reflexive Pronoun & Preposition)

ここでは、代表的な接続詞と前置詞を紹介します。

1. 接続詞 接続詞の後には必ず文がくる!

- (1) <接続詞+主語+動詞～> で用いられる接続詞
- when～(～する時) ● after～(～した後で) ● before～(～する前に)
 - while～(～する間に) ● because～(～なので) ● until～(～するまでに)

My father was watching TV **when** I came home.

(私が帰宅したとき父はテレビを見ていた。)

(2) <連語的に用いる接続詞>

- so A that ～(とても A なので～) ● as soon as ～(～するとすぐに)
- both A and B(A と B 両方とも) ● either A or B(A か B のどちらか)
- neither A nor B～(A も B も～ではない)

He has studied **so** hard **that** he could pass the entrance examination.

(彼は一生懸命勉強したので入試に合格できた。)

Please call me **as soon as** you come home.(帰宅したらすぐに電話してください。)

Both he **and** I are the students.(彼も私も生徒です。)

Either I **or** he has to go.(私が彼が行かねばならない。)

⇒ 動詞の人称や数は **B** に一致する! (**neither A not B** も同じ)

2. 再帰代名詞 「～自身」を意味し、単数形には self, 複数形には selves がつく。

myself	himself	itself	ourselves	themselves
yourself	herself		yourselves	

Mike hurt **himself** in the base ballgame.

マイクは野球の試合でけがをした。(直訳だと、自分自身を傷つけた。)

Please help **yourself** to the cake. ケーキをご自由にどうぞ。

The princess looked at **herself** in the mirror.

その王女は、鏡の中の自分を見つめた。

3. 前置詞

<前置詞 + 名詞> の形で副詞句・形容詞句を作り、時や場所、方向、手段などを表す

1. 時、場所を表す前置詞

イメージ	前置詞	時		場所	
点	at	時刻	at six	狭い地点	at the station
少し広い	on	曜日、日付	on Sunday	接触	on the wall
かなり広い	in	月・年・季節	in 2016	広い地点	in Tokyo

2. 目的地を表す前置詞

- for ~ (～に向かって) I leave for New York. (ニューヨークに向かって出発する。)
- to ~ (～に) I go to school. (学校に行く。)

3. その他

- by(手段) I go to school by walk. (歩いて学校に行く。)
- with(道具) I wrote my diary with this pen. (このペンで日記を書いた。)
- in(言語) I read the book written in English. (英語で書かれた本を読んだ。)

4. 連語でよく使う動詞+前置詞

- look at ~ (～を見る) ● look for ~ (～を探す) ● ask for ~ (～を頼む)
- thank for ~ (～をありがとう) ● come from ~ (～出身である)
- wait for ~ (～を待つ) ● put on ~ (～を着る) ● go on ~ (～し続ける)
- get to ~ (～に着く) ● turn on ~ (～を点ける) ● turn off ~ (～を消す)
- take off ~ (～を脱ぐ) ● get off ~ (～を降りる) 等等

○ 目的格の関係代名詞は省略できる。だから

I know **the boy** you met yesterday. と言っても良い。

3. 所有格 <関係代名詞+名詞> の形で関係代名詞に続く名詞が先行詞の所有物・人である時に使う。

I have **a friend** whose father is a teacher. 「父親が教師である友人がいる」
⇒ I have **a friend**. **His** father is a teacher. His は**所有格**。

● 関係代名詞⇔ 分詞を用いた文への書き換え

① 主格の関係代名詞⇒ 現在分詞を用いた例

The boy who is watching TV is my brother. 「テレビを見ているその少年は私の弟です。」

⇒ **The boy watching** TV is my brother.

② 目的格の関係代名詞 > 過去分詞を用いた例

⇒ This is **the letter which Mr.Wada wrote**. 「これは和田さんが書いた手紙です。」

⇒ This is **the letter written by Mr.Wada**.

4. 限定用法と継続用法

限定用法 In the library there were five boys **who** were studying.

「図書館で勉強している 5 人の少年がいた。」

⇒ **who** が導く節は先行詞の **five boys** を限定して修飾している。
この場合、勉強している少年は 5 人だが、他のことをしているもの
がいるかもしれない。

継続用法 In the library there were five boys, **who** were studying.

「図書館に 5 人の少年がいた。そして彼らは勉強していた。」

⇒ **who** 以下の文は先行詞 **five boys** について補足説明している。
この場合、図書館には 5 人の少年だけがいて、全員勉強していた、
という意味になる。

17. 関係代名詞(Relative Pronoun)

- 関係代名詞の働き -> 接続詞と代名詞の役割を兼ね、**後ろから名詞を修飾**。この名詞を**先行詞**といい、関係代名詞は先行詞によって使い分けられる。
- 関係代名詞は主格、所有格、目的格の**どの役割を果たしているかでも変わる**。

先行詞	主格	所有格	目的格
人	who	whose	whom, who
物、動物	which	whose(of which)	which
人・物、動物	that	-	that

1. 主格 <関係代名詞+動詞> の形で、**主語の働き**をする。

先行詞=人

The man who came here this morning was young.

⇒ The man came here. The man が主語(S)になっている。
「今朝ここにきたその男は若かった。」

先行詞=物

The building which stands on the hill is a church.

⇒ The building stands. The building が主語(S)になっている。

「丘の上に立っているその建物は教会です。」

先行詞=人+物

Look at the boy and the dog that are running over there.

⇒ The boy and the dog are running. The boy and the dog が主語(S)になっている。「あそこを走っている少年と犬を見て。」

2. 目的格 <関係代名詞+主語+動詞> の形で、**目的語の働き**をする。

先行詞=人

I know the boy that you met yesterday.

⇒ You met the boy. the boy が目的語(O)になっている。
「昨日会ったその少年を知っている。」

先行詞=物

This is the bag which I bought yesterday.

⇒ I bought the bag. the bag が目的語(O)になっている。

「これは私が昨日買ったカバンです。」

8. 助動詞(Auxiliary Verb)

1. 助動詞の基本 助動詞のあとには、必ず動詞の原形がくる!

助動詞	意味と例文	言い換え	否定形	過去形
will	① ~でしょう、 ② ~するつもりです ③ ~してくれませんか?(依頼) ④ よく~する(習慣) ⑤ 強い意志	be going to	won't	would

- ① It will be fine tomorrow.(明日は晴れるだろう。)
- ② We will climb Mt. Takao this summer.(今年の夏高尾さんに登るつもりです。)
- ③ Will you come the party?(パーティーに来てくれませんか?)
- ④ My grandfather will often go fishing on Sundays.
(祖父は日曜日になるとよく釣りに出かける。)
- ⑤ He will [would] have his own way in everything.
(彼は何でも自分の思い通りにしようとする[した]。)

shall	~でしょう(相手の意思)		shall not	should*
-------	--------------	--	-----------	---------

- ① Shall I wash the car?(洗車しましょうか?)

※should には、過去の意味はないので要注意! 後述の should の項目を参照。

can	① ~できる ② ~してもよい	be able to	can't/cannot	could
-----	--------------------	------------	--------------	-------

- ① I can play volleyball.(私はバレーボールが出来ます。)
- ② Can I watch TV?(テレビを見てもいいですか?)

may	① ~してもよい ② ~かもしれない		may not	might*
-----	-----------------------	--	---------	--------

- ① May I go out? I'm sorry, you can't. (出かけてもいいですか。ごめん、ダメ。)
 - ② He may come here or may not. (彼は来るかもしれないし、来ないかもしれない。)
- ※ might には、過去の意味はないので要注意! may よりも可能性が低い時に使う。

He might come to the party with his wife.

(彼は奥さんと一緒にパーティーに来るかもしれません。)

~したかもしれない/~だったかもしれない、という表現には、後述の may have + 過去分詞 を使います。

You may have heard this joke before.

(この冗談は以前聞いたことがあるかもしれません。)

must	～しなければならない、～に違いない	have to	mustn't	had to
------	-------------------	---------	---------	--------

- ① You **must** wash the dishes after supper. (あなたは夕食後お皿を洗わなければなりません。)
 ② He **must** be our teacher. (彼は私たちの先生に違いない。)

should	～すべき	ought to	shouldn't	
--------	------	----------	-----------	--

- ① You **should** wait here. (あなたはここで待つべきだ。)

would	③ 控えめな表現に用いる ④ 過去の習慣		wouldn't	
-------	-------------------------	--	----------	--

- ① I **would like to** see her (私は彼女に会いたい。)
 ② My grandfather **would** often take me to the zoo on weekends. (祖父は週末によく私を動物園に連れて行ってくれたものでした。)

need	～する必要がある		need not	
------	----------	--	----------	--

- ① **Need** I pay now? (今支払いをする必要がありますか。)
 ② **need** は主に否定文、疑問文で使われ、肯定文では普通動詞として使う。
 He **needs** to have a haircut. (彼は散髪する必要がある。)
 ③ 助動詞 **need** には過去形はないので、やはり動詞として使う。

2. 言い換え表現

助動詞+助動詞は×。なので、後の助動詞の部分に言い換え表現を使う!

- ① **be able to** + 動詞の原形(この to は 10 章で出てくる不定詞)
 You **will be able to** go there. (あなたはそこに**行ける**だろう。)
 He **may be able to** come here. (彼はここに**来られる**かもしれない。)
 ② **have to** + 動詞の原形(この to は 10 章で出てくる不定詞)
 You **will have to** go. (あなたは行**かねばならない**でしょう。)

3. 肯定-否定の対比

肯定		否定	
助動詞	意味	助動詞	意味
must	～しなければならない	don't have to	～する必要はない
You must attend the meeting. (あなたはその会合に出席 しなければならない 。) You don't have to attend the meeting. (あなたはその会合に出席 する必要はない 。)			
may	～してもよい	must not may not	～してはいけない
You may enter this room. (この部屋に入っても よい 。) You may [must] not enter this room. (この部屋に入っては ならない 。)			
must	～に違いない	cannot	～の はず がない
She must be Bobby's sister. (彼女はボビーの妹に 違いない 。) She cannot be Bobby's sister. (彼女がボビーの妹の はずがない 。)			

- ⑤ 過去完了進行形 過去のある時点までの動作の継続を表す。

I **had been driving** for two hours when I **found** the gas station.

ガソリンスタンドを見つけたとき、私は 2 時間ずっと運転していた。

I was very tired because I **had been working** too hard.

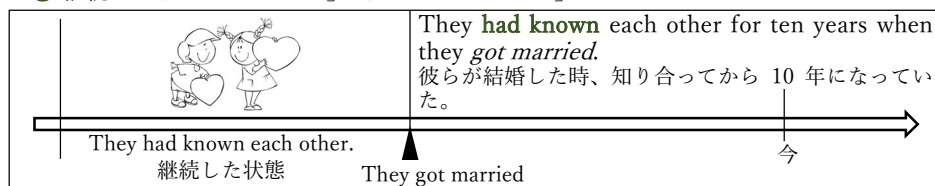
あまりにも懸命に働いていたので、私はとても疲れていた。

16. 過去完了形(Past Perfect)

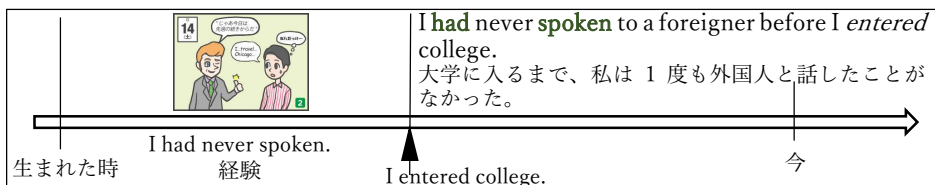
現在完了は、[過去のある時点～今まで]を考えるが、過去完了は、[過去のある時点～それより後の過去のある時点]をつなげて考える。

1. 基本形 had + 過去分詞(P.P.)
2. 3 用法 「継続」「経験」「完了・結果」「その他」

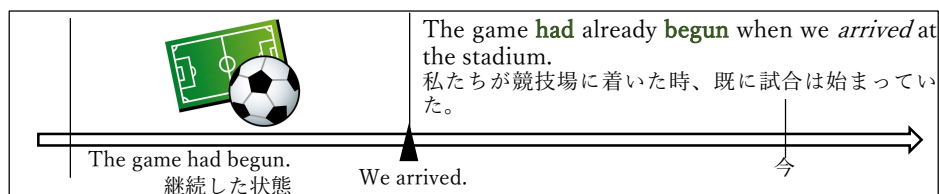
① 継続 「ずっと～だった」「ずっと～していた」



② 経験 「～したことがあった」



③ 完了・結果 過去の時点が明らかな場合で、過去からそれ以前を振り返る



④ 2つの出来事の時間的な前後関係を表す過去完了



4. 助動詞 + have + 過去分詞(P.P.)

この形は、「過去の事に関する現時点での推量や、過去の行為に対する非難や後悔」を表すことが多い。

- ① **may [might] have + P.P.** 「～したかもしれない/～だったかもしれない」
You **may have heard** this joke before.
(この冗談は以前聞いたことがあるかもしれません。)
The keys **might have fallen** out of your pocket.
(鍵はあなたのポケットから落ちたのかもしれないですね。)
- ② **could have + P.P.** 「～したかもしれない/～だったかもしれない」
You **could have heard** this joke before.
(この冗談は以前聞いたことがあるかもしれません。)
- ③ **must have + P.P.** 「～したに違いない/～だったに違いない」
You **must have heard** this joke before.
(この冗談は以前聞いたことがあるに違いない。)
- ④ **should [ought to] have + P.P.** 「～したはずだ」
You **should have heard** this joke before.
(この冗談は以前聞いたことがあるはずだ。)
- ⑤ **should [ought to] have + P.P.** 「～すべきだったのに」
You **should have taken** some medicine. (薬を飲んでおくべきだったのに。)
- ⑥ **cannot [can't] have + P.P.** 「～したはずがない」
You **cannot have heard** this joke before.
(この冗談は以前聞いたことがあるはずがない。)
- ⑦ **need not have + P.P.** 「～する必要はなかったのに」
You **need not [needn't] have bought** so much meat.
(そんなに沢山の肉を買う必要はなかったのに。)

5. 慣用表現

- ① **would like to do** 「～したい」 **would rather do** 「むしろ～したい」
I'd **like to join** your team. (あなたのチームに入りたい。)
I'd **rather stay** home. (私は家に居たい。)
- ② **may well do** 「多分～だろう」
She **may well be** tired after her trip. (彼女は多分旅行の後で疲れているのだろう。)
- ③ **might as well do** 「～したほうがいいのか」
You'll never solve that problem. You **might as well give up**.
(君はあの問題を解くことは決してできないよ。諦めた方がいよ。)
- ④ **might as well do A as do B** 「BするのはAするようなものだ」
You **might as well throw your money as buy** such as thing.
(あんなものを買うなんて、お金を捨てるようなものだ。)

9. 動詞と疑問文のおさらい (Review of Verb & Interrogative)

1. 一つの文に動詞は一つが基本

- ① I **am** **play** soccer. **be** 動詞の **am** + 一般動詞の **play** と動詞が 2 つあるから×。
- ② I **am** **playing** soccer. **be** 動詞の **am** + 一般動詞の現在分詞 **playing** => 進行形○。
- ③ I **play** soccer **and** she **plays** tennis. 動詞 **play(s)** が 2 つあるが、接続詞 **and** で 2 つの文が繋がれていて、それぞれに動詞は一個だから○。

2. 主語に合った動詞の形を選ぶ

動詞の種類	be 動詞		一般動詞	
主語	現在形	過去形	現在形	過去形
I	am	was	play	played
He, She, It	is	was	plays	
その他	are	were	play	

3. 助動詞の後の動詞は原形

- ① will, can, must, may, shall などの助動詞の後は「動詞の原形」。
He **will** **study** English harder. 助動詞がないと **studies** だが。
- ② 一般動詞の疑問文につかう do, does, did も助動詞だから、後は「動詞の原形」。
He **has** a bag. **Does** he **have** a bag?
They **went** to the station. **Did** they **go** to the station?

4. 疑問文のつくりかた

- ① be 動詞を使った疑問文は、「**be** 動詞+主語 ~?」。
Are you a teacher? **Is** he in his room?

☆よく使われる副詞

(1)文中におく often(たびたび), ever(今までに), never(一度も?ない) など。everは疑問文に、neverは否定文に使う。

Have you **ever** eaten Sashimi?

(今までに刺身を食べたことがありますか?)

He **has** **never** studied at home.

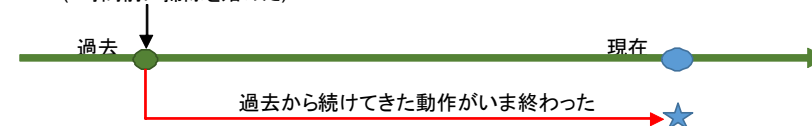
(彼は一度も家で勉強したことがない。)

(2)文末に置く once(1回), ? times(?回), before(前に), yet(まだ) など。

I **have** baked bread **before**. (以前パンを焼いたことがある。)

③ 完了「～してしまった」「～したところだ」

過去形 She started cleaning her room one hour ago.
(1時間前に掃除を始めた)



現在完了

She **has** just **cleand** her room.

(彼女はちょうど部屋の掃除を終えたところです。)

重要ポイント

現在完了形は「現在」とつながりを持っているので、明らかに過去を表す語句を単独で用いることはできない。×I **have** read the book **last** night. => since last night○
×**When** have you visited America? => ○When did you visit America?

☆よく使われる副詞

(1)文中におく **already**(既に), **just**(ちょうど) など。

I **have** **already** **fishished** my hoemwork.

(すでに宿題を終えてしまいました。)

(2)文末におく **yet**(まだ->否定文に、もう->疑問文に) など。

I **have** **not** met him **yet**. (彼にまだあっていません。)

Have you **decided** to go there **yet**? -- No, **not yet**.

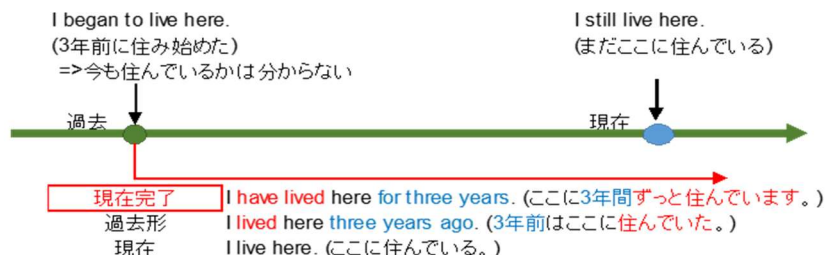
(もうそこへ行くことに決めましたか。 いいえ、まだです。)

15. 現在完了形(Present Perfect)

1. 基本形 have[has] + 過去分詞(P.P.)

2. 3 用法 「継続」「経験」「完了」

① 継続 「ずっと～である」「ずっと～している」



☆よく使われる副詞

(1) for + 期間 (?の間)

My father **has been** busy for three days.
(父は3日間ずっと忙しい。)

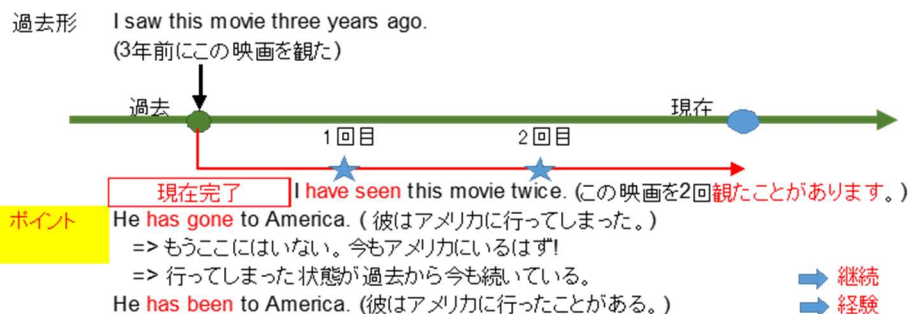
(2) since + 過去のある時点 (?から (今まで))

I **have known** Jack since last summer.
(僕はジャックを去年の夏から知っています。)

(3) how long (どれくらい長くですか ?)

How long **have** you **worked** for the company ?
(あなたはこの会社にどのくらい長く勤めていますか?)

② 経験 「～したことがある」



② 一般動詞を使った疑問文は、「Do/Does/Did + 主語 + 一般動詞の原形 ～?」

Do you **play** soccer? Does he **play** tennis? Did you **have** a good time?

③ 助動詞を使った疑問文は、「助動詞 + 主語 + 動詞の原形 ～?」

Will you **study** English? Can he **speak** French? May I **eat** it?

この基本語順をきちんと覚えておきましょう!

④ 疑問詞を使った疑問文 => 文頭に「疑問詞」 + 「疑問文の形」?

(1) Who **are** you? Who **did** you **see** yesterday?

(2) 誰が～しますか。と疑問の対象が主語の時は、主語の代わりに Who を使います。Who **will** **teach** you English?

(3) When **did** you **come** to his house?

(4) Where **will** you **study** English?

(5) What **is** it? What color **do** you **like**? What の後に名詞がくることもある!
What も主語になることがある。What **made** you happy?

(6) Which **do** you **like**, A or B? Which color **do** you **like**? Which の後に名詞がくることもある!

(7) How **are** you? How long **did** you **study** English? How の後には副詞が来ることもある。

5. 付加疑問文

～ですよ? と相手に同意を求めたり、確認をする時の表現です。

① 肯定文の時 -> 否定の不可疑問をつける。

Your sister likes candy, **doesn't she**? (君の妹はキャンディーが好きだよ。)
They can run fast, **can't they**? (彼らは速く走れるよね。)

② 否定文の時 -> 肯定の不可疑問をつける。

You aren't tired, **are you**? (疲れてませんよね。)
They cannot run fast, **can they**? (彼らは速く走れませんね。)

③ Let's do ～. は、shall we? を付ける。

Let's dance, **shall we**? (踊りましょうよ。) --- Yes, let's. No, let's not.

④ Please do ～. は、will you? を付ける。

Please help me, **will you**? (助けてくださいよ。) --- Yes, I will. No, I won't.

10. 不定詞(Infinitives)

不定詞(使い方によって名詞・形容詞・副詞と品詞が変わる)

1. 基本形 to + 動詞の原形

2. 基本 3 用法

① 名詞的用法 ～すること

He likes **to read** books. (本を**読むこと**が好き)

② 副詞的用法 ～するために、～して

He came here **to read** books. (本を**読むために**ここに来た。)

He was surprised **to read** the book. (その本を**読んで**驚いた。)

③ 形容詞的用法 ～するための

He has no time **to read** books. (本を**読むための**時間がない。)

3. tell, ask, want + 人 + to + 動詞の原形

① tell 人に～するように言う

He **told me to study** English. (私に英語を**勉強するように**言った。)

② ask 人に～するように頼む

She **asked me to help** her. (私に**助けてくれるように**頼んだ。)

③ want 人に～してもらいたい

He **wanted us to go** there. (私たちにそこに行ってもらいたい。)

4. 疑問詞 + to + 動詞の原形

① how to ～ ～の仕方、～する方法、どのように～するか

I don't know **how to use** the computer. (コンピューターの**使い方**)

② what to ～ 何を～すべきか

I don't know **what to do**. (何を**すべきか**)

③ when to ～ いつ～すべきか

I know **when to go** there. (いつそこへ行くべきか)

④ where to ～ どこへ～すべきか

I know **where to go**. (どこへ行くべきか)

⑤ which to ～ どちらを～すべきか

I have two dictionaries. I know **which to use**. (どちらを使うべきか)

I **was caught in** a shower on my way home.

帰りに**に**わか雨に**会**いました。

His name is known to everybody in this country.

彼の名前は**この国の誰にでも**知られています。

⑥ 英語では受動態を使う表現

I **am very interested in** fishing.

私は釣り**にと**とても**興味**があります。

He **is pleased with (in)** his car.

彼は自分の車が**気に入**っています。

He **is disappointed in (with)** his son.

彼は息子に**失望**しています。

Most of Japanese houses **are made of** wood.

日本家屋のほとんどは木**で**できています。

=> 材料の性質や形が変わらない場合は"of"を使うが。変わる場合は"from"

を使う。

Wine **is made from** grapes. (ワインはブドウ**から**作られています。)

因みに、この文は、

Grapes **are made into** wine. (ブドウはワイン**になり**ます。)

とやはり受動態になります。

14. 受動態(Passive Voice)

受動態(受け身) 普通の文は能動態といい、主語を入れ替えた文

① 基本形 **be 動詞 + 過去分詞(P.P.)** で「～される」という意味を表す。

② 基本例文

[能動態] **She made this cake.** (彼女はこのケーキを作った。)

主語 目的語

[受動態] **This cake was made by her.** (このケーキは彼女によって作られた。)

受動態にする場合、通常能動態の主語の前に **by** を使うことが多い。

これを否定文にすると This cake wasn't made by her.

これを疑問文にすると Was this cake made by her? となる。

③ 目的語が 2 つある能動態(SVOO の文)を受動態にする場合

2 つの目的語をそれぞれ主語にした受動態の文が出来る。

Ms. Mori teaches me music. = **Ms. Mori teaches music to me.**

→ **I am taught music by Ms. Mori.** 人を主語にした場合

→ **Music is taught (to) me by Ms. Mori.** 物を主語にした場合

但し、**make** や **buy** など SVO 文型で **for** を使う場合は「物」を主語にした 1 通りの受動態しかできない。

She made this cake for me.

→ **This cake made for me by her.**

× **I was made this cake by her.** 全く意味が変わってしまうでしょ?!

④ 助動詞を含む受動態は 「助動詞 + be + 過去分詞」

He will clean this room tomorrow.

→ **This room will be cleaned by him tomorrow.**

⑤ **by** 以外の前置詞を使う受動態

The top of the mountain is covered with snow.

山の頂上は雪で覆われています。

5. 覚えておきたい重要表現

① **It X (for + A) + to + 動詞の原形 ~ ((A)が) ~ することは X だ。**

It is important for us to study English.

(私たちが英語を勉強するのは重要だ。)

② ①の文型で X が「人の性質を表す形容詞」の時は **for** ではなく **of** を使う。
kind(親切的な)、nice(親切的な)、good(親切的な)、wise(賢明な)、foolish(愚かな)、
stupid(愚かな)、silly(愚かな)、brave(勇敢な)、careful(注意深い)、
careless(不注意な)

It is kind of you to help me.

(ご親切に手伝っていただきありがとうございます。)

It was foolish of him to make such mistakes.

(そんな間違いをすることは彼は愚かだった。)

③ **too X (for + A) to + 動詞の原形 ~ ((A)にとって) X 過ぎて ~ できない**

It is too difficult for me to understand it.

(私には難しすぎて分からない。)

I was too sleepy to study. (眠すぎて勉強できなかった。)

会 話 表 現

●挨拶

Nice to meet you. / How do you do? 「初めまして」

See you later [soon]. 「また後で」 / Have a nice day. 「良い一日を」

●お礼

You are welcome. [No problem. / Not at all. / Don't mention it.] 「どういたしまして」

●電話

May [Can] I speak to Pual? 「ポール君をお願いします。」

I'm afraid you have the wrong number. 「番号をお間違えだと思いがすが」

Can [May / Shall] I take a message? 「ご伝言をお伺いしましょうか。」

●買物

I'm just looking. 「見てるだけです。」 May I try this on? 「これを試着させてください。」

How about this one? 「これは如何ですか。」 Here you are. 「はい、どうぞ。」

●道案内

How can I get to Fuchu station? 「府中駅へはどう行ったらよいですか。」

Get straight along this street and turn right at the next corner. 「この道を真っすぐに行って次の角を右に曲がって。」

I'm sorry. I'm a stranger here. 「すみません。私はここの人間ではないので(道が分かりません)。」

11. 動名詞と分詞(Gerunds & Participles)

動名詞(動詞の名詞化)と分詞(動詞の形容詞化)

1. 動名詞

- ① 基本形 動詞の原形+ing 「～すること」と名詞と同じ働きをする。これは不定詞の名詞的用法と同じ。

Speaking English is difficult. (英語を話すことは難しい。) 主語の役割
I like **singing** songs. (歌を歌うことが好き。) 目的語の役割
His hobby is **playing** baseball. (彼の趣味は野球をすることだ。) 補語の役割
Close the window before **going** to bed. (寝る前に窓を閉めなさい。) 前置詞の目的語

- ② 動名詞と不定詞 動詞によって目的語に不定詞と動名詞のどちらかを使うことが決まっているものがある。

動名詞だけ	enjoy, finish, stop など	I enjoy swimming .
不定詞だけ	want, hope, decide など	I want to swim .
両方	like, love, begin など	I like swimming [=to swim].

但し、両方とも使えるが、意味が異なる動詞があるので要注意!

forget, remember, try など

■ forget ~ing = 「～したことを忘れる」 forget to ~ = 「～するのを忘れる」

I'll never **forget loving** her. (彼女を愛したことを忘れないだろう。)

I **forgot to go** to the post office. (郵便局に行くのを忘れた。)

■ remember ~ing = 「～したことを覚えている」 remember to ~ = 「忘れずに～する。」

- ④ no more **A** than **B** = no less **A** than **B** / **B** と同じように **A** ではない

Sleeping too much is no more **healthy** than **eating too much**.

寝過ぎは食べすぎと同様に健康に良くない。

- ⑤ no more + 数詞 / (ほんの)～しかない

not more than + 数詞 / (多くて)せいぜい～しかない

He paid me no more than **3,000 yen** for the work. **3 千円**しか払ってくれなかった。

There were not more than **20 people** in the theater. **せいぜい 20 人**しかいなかった。

- ⑥ no less than + 数詞 / ～ほども多く

not less than + 数詞 / 少なくとも～

She paid me no less than **3,000 yen** for the work. **3 千円**も払ってくれた。

The cost will be no **not less than 20,000 yen**. その費用は**少なくとも 2 千円**になるでしょう。

3. 最上級

- ① 主語に最上級の形容詞が付いている場合 / **どんな～でさえ**

The bravest people sometimes feel afraid. **どんな勇敢な人でも**、時には恐れを感じる。

- ② at (the) **most** / 多くとも～、せいぜい～

at (the) **least** / 少なくとも～

It will take **at the most** ten minutes to get there. **せいぜい 10 しか**かからないだろう。

It will take **at the least** three hours to get there. **少なくとも 3 時間**はかかるだろう。

- ③ at one's **best** / at (the) **best** / 最高でも

People are **at their best** when they are under pressure.

人々は、プレッシャー下にある時、**最も力を発揮する**。

13. 覚えにくい比較表現 (Comparison expressions that are difficult to remember)

1. 原級

- ① not so much **A** as **B** / **A** というよりはむしろ **B**
 = **B** rather than **A** = more **B** than **A**
 The drama was not so much **a tragedy** as **a comedy**.
 = The drama was **a comedy** rather than **a tragedy**.
 そのドラマは**悲劇**というよりはむしろ**喜劇**でした。
- ② not so much as + 動詞の原形 / ～さえしない
 The old man did not so much as **apologize** to me. その老人は私に**謝り**さえしなかった。
- ③ as many / much as + 数詞 / ～もの
 As many as **fifty thousand** birds spend the winter here. **5万羽もの**鳥がここで冬を越す。
- ④ as many / much ～ / それと同数/量の～
 The tour group visited five cities in **as many days**.
 そのツアー団体は、**5日間**で5つの都市を回った。

2. 比較

- ① **all the** + **比較級** / **それだけ～/ますます～**
 We respect him **all the more** for his honesty. 彼は正直なので**一層**尊敬しています。
- ② **more B than A** / **A** というよりはむしろ **B** (※1-①)
 His behavior was **more foolish than rude**. 彼の行為は**無礼**というよりはむしろ**愚か**だった。
- ③ **no** + **比較級** + **than** / 同じ程度にしか～でない
 The video camera is **no bigger than** my hand. そのビデオカメラは私の手と同じくらいの**大きさ**しかない。

I **remember mailing** the letter.
 (手紙を**投函**したことを**覚えて**いる。)

Remember to mail the letter.

(**忘れずに**その手紙を**投函**してね。)

■ try ～ing = 「試しに～してみる」 try to ～ = 「～しようと努める」

I **tried jumping** over the hurdle. (**試しに**ハードルを**跳ぼう**としてみた。)

⇒ **実際に「跳んだ」**ことを表現している。

I **tried to jump** over the hurdle. (ハードルを**跳ぼう**として**みた**。)

⇒ **跳ぼうと努力した**ことを表現しているだけで、実際跳んだかどうかは分からない。

2. 名詞を修飾する現在分詞 => **動詞+ing** で「～している」という意味になり、前にくる名詞を修飾する形容詞の働きをする。

I know the man **talking** with him. 「彼と**話している**男を知っている。」

3. 名詞を修飾する過去分詞 => 過去分詞が形容詞と同じように前にくる名詞を修飾する。

I got a letter **written** in English. 「英語で**書かれた**手紙を受け取った。」

※上記例文のような with him とか in English のような修飾語句がなく、単独で使用する場合は、名詞の前に置く。

a **swimming** boy 「**泳いでいる**少年」 a **broken** glass 「**割れた**ガラス」

*Always do what you are afraid to do.
 (いつでも君が恐れていることをしなさい)*

12. 比較(Comparison)

原級、比較級、最上級の使い方

1. 比較級

<形容詞[副詞] + er + than ~> 「～よりも・・・である」

※ つづりが長い形容詞や副詞は **er** を付けずに、前に **more** を付けることが多い。また -ous や -ful で終わる語も **more** を使うことが多い。

I can run **faster than** Ken. 「私は健より速く走れる。」

This flower is **more beautiful than** that one. 「この花はあの花よりきれいだ。」

2. 最上級

<the + 形容詞[副詞] + est + of [in] ~> 「～の中で一番・・・である」

※ つづりが長い形容詞や副詞は **est** を付けずに、前に **most** を付けることが多い。また -ous や -ful で終わる語も **most** を使うことが多い。

Emi studies English **the hardest in** our class.

「絵美はクラスで一番一生懸命英語を勉強します。」

This story is **the most interesting of** all.

「この話は全ての中で一番面白い。」

3. 原級

<as + 形容詞[副詞] + as ~> 「～と同じくらい・・・である」

You can swim **as fast as** Bob. 「君はボブと同じくらい速く泳げる。」

<**not as** + 形容詞[副詞] + as ~> 「～ほど・・・でない」の意味になる

This box **isn't as heavy as** that one.

「この箱はあり箱ほど重くはない。」

<**A times as** + 形容詞[副詞] + as ~> 「～の A 倍・・・である」の意味になる

This bridge is **three times as long as** that one.

「この橋はあの橋の 3 倍長い。」

4. その他の重要表現

① **Who** can swim **the fastest in** your class?

「君のクラスで誰が一番早く泳げますか。」

② **Who** [**Which**] do you like **better**, Hibiki or Yuta?

「響と佑太とどっちが好き?」

5. 規則変化

原則 比較級 = + er, 最上級 = + est だが、名詞や動詞同様にちょっと変わった変化をする形容詞や副詞もある。

原級	比較級	最上級
long(長い、長く)	longer	longest
fast(速い、速く)	faster	fastest
large(大きい)	larger	largest
early(早い、早く)	earlier	earliest
clever(賢い)	cleverer	cleverest
narrow(狭い)	narrower	narrowest
noble(上品な)	Nobler	noblest

6. つづりが長い単語は、比較級 = more + 原級、最上級 = the most + 原級

例: careful(注意深い), famous(有名な), active(活動的な), difficult(難しい), beautiful(美しい), important(重要な) など

7. 不規則変化 動詞同様全く異なった形に変わるものや 2 種類の変化をするもの

原級	比較級	最大級	意味
good	better	best	良い
well			丈夫な
bad	worse	worst	悪い
ill			病気の
many	more	most	数の多い
much			量の多い

原級	比較級	最大級	意味
little	less	least	量の少ない
old	older	oldest	老いた
	elder	eldest	
late	later	latest	遅い
	latter	last	
far	farther	farthest	遠い
	further	furthest	